

事例 9

## 危険認識、注意喚起のため 創意工夫に富んだツールを活用

官公庁の工事や民間の共同住宅の建設などを数多く手がけている坂田建設。安全衛生管理では、創意工夫に富んだヒューマンエラー防止ツールを作成して配布。厚生労働省の「あんぜんプロジェクト」コンクールで優良事例に選定された。

坂田建設株式会社・東京都

坂田建設株式会社は、大正9年に創業し、昭和25年に設立した総合建設会社である。従業員数は約150人。土木・建築工事を主体として、再開発事業や土地造成および建築物の企画・設計・監理も手がけている。

同社の安全衛生管理計画は、社長の年度の基本方針に基づいて、安全部が策定する。同社の会計年度は4月から翌年の3月までであるが、安全衛生管理上の計画年度は6月から翌年の5月までとしている。

平成24年度は、「安全と環境の改善」、「リスク管理の徹底」という基本方針のもと、「無事故・無災害の達成」を目標に、死亡・重大災害ゼロ、第三者災害ゼロ、埋設物等破損事故ゼロを管理目標値として掲げた。

### 「指切るな」シールで警告

重点目標は、全国の統計と自社の統計を反映させて設定する。平成24年度は、「墜落・転落災害の防止」、「飛来・落下災害の防止」、「切れ・こすれ災害の防止」など7項目を掲げてリスクアセスメントを実施し、その結果に基づいて適切な措置を講じることにした。

墜落・転落、飛来・落下は全国の統計で多い災害であり、撲滅を目指している。また、切れ・こすれ災害については、同社における切れ・こすれ災害が過去10年間で7件と、発生比率が高いことから、重点目標として掲げ、『指切るな』シールも作成して、作業員の注意を喚起している。



京成橋耐震補強工事の役員パトロール  
(右端は社長)



平成 24 年度安全大会の様子(社長の挨拶)



切れ・こすれ災害防止のため「指切るな」シールを作成、配布

「指切るな」シールは、ディスクグラインダーなど、電動工具による事故を防止するためのアイデアであり、革手袋など保護具の完全着用と併せ、切れ・こすれ災害防止のための注意喚起を図っている。

## 点検表は安全衛生管理の財産

店社および作業所の安全衛生を検討する「安全衛生委員会」は、毎月 1 回以上開催する。決定事項は工事部会で周知徹底を図る。作業所では、「安全衛生協議会」を毎月 1 回以上開催し、活発な管理活動を推進している。

安全パトロールは、全作業所を対象として、安全部・工事が毎月 1 回以上実施し、点検結果を記録、保存している。

7 月と 12 月には役員パトロールも実施。安全パトロールの結果は、工事部会や安全衛生委員会、災防協で報告・検討し、必要に応じて対策の水平展開を図る。また、協力会社も、安全衛生協議会活動の一環として、自主パトロールを実施している。

## あんぜんプロジェクト「見える」安全活動コンクールで優良事例に

熱中症予防対策や創意工夫を生かしたさまざまな安全活動の取組みもある。まず、熱中症予防対策には、WBGT（湿球黒球温度）の値を活用している。WBGT値は、暑熱環境における作業者の熱ストレスを評価する指数であり、厚生労働省が活用を推奨している。これを受けて、同社ではWBGT値測定器を導入し、測定した値を基準値と比較し、作業環境や作業内容などについて熱中症予防対策を講じている。

創意工夫では、ヒューマンエラー防止の「カレンダー」や「クリアファイル」を作成して配布している。厚生労働省が推進している「あんぜんプロジェクト」の一環として、「『見える』安全活動コンクール」に応募したところ、「ヒューマンエラーの見える化」の優良事例に選定された。

カレンダーやクリアファイルには、「無知、未経験」「慣れ、危険軽視」「場面行動本能」など12項目のリスク要因を、簡潔なコメントと、親しみやすいイラスト入りで掲載している。

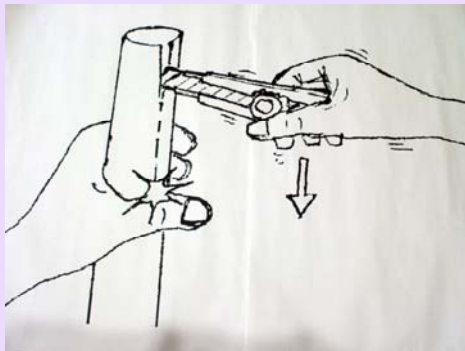
同社は、厚労省の同コンクールのもう1つの「災害シート」も応募した。

災害シートは、災害が発生した状況や原因、対策を1枚の用紙にまとめたものである。イラストや写真を活用して災害発生状況を「見える化」し、分かりやすく解説しているのが特徴で、コンピューターのサーバーにもデータベースとして入れてあり、随時閲覧可能である。データベース上では作業開始時と災害発生時の様子がアニメーションのように表示され、災害を警告する作りとなっており、より効果的に「見える化」が図られている。

「見える」化活動



ヒューマンエラー防止  
にクリアファイルとカレン  
ダーを作成、配布



災害シート(災害状況をイラストで紹介)カッターによる事故防止



安全教育用にビデオやDVDも豊富に用意